
サッカー小僧

うぐいす。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サッカー小僧

【NZコード】

N3842D

【作者名】

うぐいす。

【あらすじ】

公立高校に一人のサッカー小僧が入学した。大輝と隆介のデコボココンビが高校サッカーに囃り込みをかける。サッカー小説はとても難しいとの話ですが、挑戦してみます。

プロローグ

最終ラインが下がるのに合わせてその少し後ろを上がる。

左サイドから右サイドへのサイドチェンジが通り、ディフェンス一人をどうにかかわすのを、センターバックとポジションを取り合いながら確認。

勝負にでる。

上がったボールは少し長くキーパーが出てきた。

競り合いにいくが手が使える分、当然向こうが有利。

しかし、俺の存在意義はここにある。

キーパーの手に入るはずだったボールは、俺のミラクルなヘッドで見事ゴールネットを揺らした。

これが俺の、有村大輝のサッカーだ。

1話 見学（前書き）

試合の描写の指導してくれる人募集しています。あとドコがおかしいとかの意見もよろしくお願いします。

1話 見学

「大輝！部活行くぞ。」

「隆介？あれ、どこだ？見つからないなあ。」「

「喧嘩売つてんのか！？お前の目の前にいるだろうが！」

「おお、小さくて氣付かなかつたよ。」

「てめえがテカすぎんだ、このウドの大木が！」

この掛け合いが実は好きな俺は有村大輝。

現在高一で183cm。

163cmでチビのこいつは小向隆介。

同じ高一で同じ中学でサッカーをしていた我が戦友である。

隆介がクラスに入つて来た瞬間に女子が遠巻きに意識している氣配が伝わつてくる。

おモテになるのだ、このチビは。吊り日に日焼けした肌に軽い茶色のサラサラヘア。

笑つた時のガキ大将っぽい笑顔がチャームポイントらしい。

憎い。このチビが憎いよ。

「ところで大輝。今日の放課後にサッカー部見に行くつて言つてただろ？」

そう、実はもう入学から一週間たつていたが、部活はまだ入つてい

なかつた。まあサッカー部で決まりだが、中学の大きな大会があり、コートを頼まれていたので行けなかつたのだ。

お互にスポーツ推薦は來たが蹴り、中学の先輩に誘われて地元の公立校に進学したわけだ。

「行く行く。村松先輩元氣かね？」

「あの人ガ元氣じやないとか考えらんねえなー相変わらず俺様が法律じやボケエとか言つてんじやねえか！」

「懐かしいなあ。あのキャラはオンラインだよ。」

「あれが一人いたらどつちか死ぬまで殺し合つから結局一人だろな。」

「それリアルだわ。」

グダグダと話しながらグラウンドに着くともう練習をしていた。

ミニゲームをしていくよつて、俺たちは端っこで見学する事にした。

「レベルが高い。
スキルも高いし、しつかりサッカーを理解して動いているのがわかる。」

「ただの公立校にしてはレベル高けえな。村松先輩に鍛えられてんのか？でもまだ二年だろあの人。」

「関係ないみたいだよ。ホラ。」

俺が指差した先にいたのは村松先輩だ。

先輩は司令塔の位置にいて、トラップでマーク一人を置き去りにし、そのまま最終ラインに突っかけて行く。

我慢仕切れずに飛び出したティフェンスがチェックに来ると、その裏にボールを落とす。

それをFWがぴったりのタイミングで飛び出し、キーパーと1対1になるがキーパーのポジショニングが抜群だった。

苦し紛れのショートだったが威力は充分で、キーパーは弾くだけで終わる。

そのこぼれ球に詰めるのは先輩だった。
完全フリー。

ズシャア

と氣持ちいい音を伴つてサイドラインに突き刺さつた。

「相変わらず派手なプレーだね。全部読み通りつて顔してるよ。」

「あのFWもなかなかだろ。これ以上無いってタイミングだったし、それを読み切るキーパーもすげえよ。」

「オイ、そこの二人組！」

急に村松先輩が俺らに声をかけてきた。

「一緒にやろうぜ。高校サッカーのレベルを見せてやるよ。」

不適に笑う先輩は完全に挑発している。

その誘い、乗らない訳がないだろう。

「行くぞ、大輝！」

「おおー！」

二人の高校サッカーが始まりを告げた。

これはその後、高校サッカーの伝説となるチームの始まりでもあった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3842d/>

サッカー小僧

2010年10月10日05時06分発行